

【主催】一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟  
平成 29 年度ソーシャルワーク教育全国研修大会【第一報】

＜はじめに＞

本全国研修大会は、日本精神保健福祉士養成校協会が 2005 年より開催してきた養成課程在籍の教員向け研修です。この度、日本ソーシャルワーク教育学校連盟としての再スタートに際し、社会福祉士・精神保健福祉士ソーシャルワーカー養成教育に必要な「教授法」に特化した研修内容を企画しました。

社会福祉士養成課程ならびに精神保健福祉士養成課程に在籍される多くの教員の皆様のご参加をお待ちしております。

また事務職員向けのプレ企画も設定しておりますので、ふるってご参加ください。

＜テーマ＞

実践力のあるソーシャルワーカーを養成する「教授法」

2015(平成 27)年 9 月公表「誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現－新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン－」において新しい地域包括支援体制に求められる人材像が示された。この人材像は、分野横断的な知見と技能を有し、複合的な課題に対するアセスメント力と総合的な支援プラン策定及びコーディネート力を備えた者であり、まさにソーシャルワーカーに求められる力量(実践力)である。一方、これまでのソーシャルワーカー養成教育(社会福祉士・精神保健福祉士養成課程)は、こうした人材を育成できていたとは言い難く、その見直しが急務となっている。時代の福祉ニーズに対応できるソーシャルワーカーの養成に向けて、カリキュラムや教育内容の見直しと改定は必要なことである。しかし、カリキュラムやシラバスそのものが人を養成するわけではなく、そこには「教育」という人を介した機能が不可欠である。つまり、ソーシャルワーカー養成課程において“何(教育内容)”を“如何に(教育方法)”教授するかが問われており、この両輪を連動させて教育効果を高めることが教育機関及び教育者の使命といえる。

以上の問題意識に立ち、ソーシャルワーカー養成教育における「教授法」に焦点をあてた。養成課程の教員は、社会福祉・ソーシャルワークの専門であると同時に「教育」のプロであり、自らの教授法を点検し、新たな教授法を学び実践し、その効果を検証することが求められている。

本研修会では、上述のような実践力のあるソーシャルワーカーを養成する「教授法」について、教育学がご専門である大阪大学の佐藤浩章先生にご登壇いただくワークショップを中心に、分科会や情報交換会を通して考えたい。

＜開催日＞ 平成29年6月24日(土)～25日(日)

＜開催場所＞ 武蔵野大学 有明キャンパス (東京都江東区有明 3-3-3)  
りんかい線「国際展示場」・ゆりかもめ「国際展示場正門前」から徒歩 7 分

＜タイムスケジュール＞ (予定)

6/24(土)						
10:30-12:00	12:00-	13:00-	13:30-14:00	14:00-17:00	17:00-17:30	18:00-20:00
プレ企画	受付開始	開会式	ワークショップ①	ワークショップ②	ワークショップ③	情報交換会
6/25(日)						
9:30-11:15	11:15-12:00	12:00-13:00	13:00-16:00			
ワークショップ④	ワークショップ⑤	昼食休憩	分科会			

## <プログラム> (予定)

6/24(土)	10:30-12:00	<b>プレ企画:事務職員向け企画</b> <u>単独参加可(参加費無料)企画!</u> 「社会福祉士・精神保健福祉士養成課程の確認申請及び変更届に関する勉強会」
	12:00-13:00	受付開始
	13:00-13:30	開会式
	13:30-14:00	<b>教授法ワークショップ①:オープニング・セッション</b> 「アクティブ・ラーニングの考え方～今、なぜアクティブ・ラーニングなのか?～」
	14:00-17:00	<b>教授法ワークショップ②:トーク・セッション</b> 「ソーシャルワーカー養成課程におけるアクティブ・ラーニングの課題」
	17:00-17:30	<b>教授法ワークショップ③:個人ワーク</b> 「アクティブ・ラーニング『授業計画』の作成」
	18:00-20:00	<b>情報交換会</b> ※会場:ホテルサンルート有明 花明
6/25(日)	9:30-11:15	<b>教授法ワークショップ④:グループワーク</b> 「アクティブ・ラーニング導入及び展開プランのブラッシュアップ」
	11:15-12:00	<b>教授法ワークショップ⑤:総括トーク・セッション</b> 「実践力のあるソーシャルワーカー養成に向けた組織的な課題と展望」
	12:00-13:00	昼食休憩
	13:00-16:00	分科会1「多様な学生への教育支援」
		分科会2「『生活支援記録法』を活用した『書く力(現象を再構成する力)』を養うソーシャルワーク教育」
	分科会3「小論文やレポートの添削方法と評価」	
	分科会4「ソーシャルワーカーのための多職種連携教育におけるアクティブ・ラーニングの実際」	

## 【1日目 6月24日(土) 10:30～17:30】

(プレ企画:事務職員向け) 10:30～12:00 ※参加費無料(要事前申込)

**「事務職員向け:社会福祉士・精神保健福祉士養成課程の確認申請及び変更届に関する勉強会」**

〔企画の趣旨・内容〕(仮)

社会福祉士及び精神保健福祉士養成課程を設置する場合は、地方厚生局・厚生労働省に、法令で定められた確認申請書を提出し、設置後も厳密な管理運営が求められる。今回、申請実務を担当する事務職員または教員のため、参加者同士が社会福祉士及び精神保健福祉士養成課程における確認申請の留意点とポイント、それぞれの相違点を整理・共有して、もって学生の教育環境を整備に資する勉強会をプレ企画として開催する。「今更聞けない基本の基」や「素朴な疑問」を解決する機会としたい。なお、本企画のみ単独参加可・参加費無料とする。(事前申込制)

話題提供:調整中

司会:調整中

(開会式) 13:00～13:30 (開催校挨拶・主催挨拶・全体ガイダンス)

(教授法ワークショップ①:オープニング・セッション) 13:30～14:00

**「アクティブ・ラーニングの考え方 ～今、なぜアクティブ・ラーニングなのか?～」**

〔企画の趣旨・内容〕

今回の研修会では、2日間にわたり教育学がご専門である大阪大学の佐藤浩章先生にご登壇いただき、実践力のあるソーシャルワーカーを育成する教授法についてアクティブ・ラーニングを通して学び考える。「アクティブ・ラーニング」という言葉は多用されているが、その考え方や基本的枠組みについて共通認識が持っていると限らない。オープニング・セッションでは、佐藤先生にアクティブ・ラーニングの概念及び導入の背景を整理していただき、参加者が共通の理解をもってワークショップに参加し、取り組めるようにしたい。

講師:佐藤 浩章氏(大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授)  
司 会:岩本 操 (武蔵野大学 会員校)

佐藤浩章氏 経歴:1997年北海道大学大学院教育学研究科・修士課程修了,2002年北海道大学大学院教育学研究科・博士後期課程単位取得退学。博士(教育学)。同年4月より愛媛大学大学教育総合センター教育システム開発部講師・准教授、教育・学生支援機構教育企画室准教授・副室長を経て、2013年10月より現職。この間、ポートランド州立大学客員研究員、キングスカレッジロンドン客員研究フェロー、名古屋大学客員准教授、北海道大学客員准教授、国立教育政策研究所高等教育研究部客員研究員、新潟医療福祉大学客員教授、大正大学客員教授・顧問、愛媛大学客員教授を歴任。専門は、高等教育開発、技術・職業教育学。近著に『大学のFD Q&A』(2016、編著)、『大学生の主体性を促すカリキュラム・デザイン』(2016、編集代表)、『大学の質保証とは何か』(2015、共著)、『大学教員のためのルーブリック評価入門』(2013、監訳)、『学生と楽しむ大学教育:大学の学びを本物にするFDを求めて』(2013、共著)、『大学教員のための授業方法とデザイン』(2010、編著)、等。 出典:大阪大学 (<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/org-ja-ja/sato>)

〈教授法ワークショップ②:トーク・セッション〉14:00~17:00

「ソーシャルワーカー養成課程におけるアクティブ・ラーニングの課題」

〔企画の趣旨・内容〕

アクティブ・ラーニングの手法については、各養成校で行われているファカルティ・ディベロップメント等で学んでいる教員は多いと思われるが、それらを実際の授業でどの程度導入できているか、効果的に活用できているかが重要である。また、ソーシャルワーカー養成課程における膨大な学習量は知識偏重(詰め込み教育)の傾向を生み、それらの知識を実践力につなげるアクティブ・ラーニングの導入は必須の課題である。本トーク・セッションでは、養成課程の指定科目(講義科目)においてアクティブ・ラーニングを実施されている3名の教員に実践例を報告していただき、佐藤先生とのやりとりを通してアクティブ・ラーニングの導入・実施における留意点や課題の解決策を検討する。さらにフロアを交えて、参加者がそれぞれの授業におけるアクティブ・ラーニングを導入プラン・展開プランを描ける機会としたい。

講師:佐藤 浩章氏(同上)

発題者:調整中(3名:社会福祉士養成課程、精神保健福祉士養成課程担当教員より選出)

司 会:岩本 操 (同上)

〈教授法ワークショップ③:個人ワーク〉17:00~17:30

アクティブ・ラーニング「授業計画」の作成

オープニング・セッション、トーク・セッションを踏まえ、参加者各自がアクティブ・ラーニングの導入及び展開プランを作成し、2日目のワークショップに向けた準備を行う。

※事前に書式を提示します。第二報(開催要項・申込案内)にてご案内します。

〈情報交換会〉18:00~20:00 於: ホテルサンルート有明 花明

【2日目 6月25日(日) 9:30 ~ 16:00】

〈教授法ワークショップ④:グループワーク〉9:30~11:15

「アクティブ・ラーニング導入及び展開プランのブラッシュアップ」

〔企画の趣旨・内容〕

1日目のワークショップ及び参加者各自が作成した「授業計画案」をグループで共有し、課題解決や改善案を検討する。適宜、佐藤先生のミニレクチャー等を交え、アクティブ・ラーニングを実際の授業につなげる手立てを具体的にイメージできるようにしたい。

講師:佐藤 浩章氏(同上)

司 会:調整中

(教授法ワークショップ⑤:総括トークセッション) 11:15 ~ 12:00

「実践力のあるソーシャルワーカー養成に向けた組織的な課題と展望」

〔企画の趣旨・内容〕

ソーシャルワーカー養成課程(資格課程)におけるアクティブ・ラーニングの課題は、個々の教員レベルの問題のみならず、資格制度や組織レベル(ソ教連レベル)の問題として取り組む必要がある。今回のワークショップの総括として、佐藤先生とソ教連理事の青木先生による対談の場を設定し、ソーシャルワーカー養成教育における教授法の課題と展望について意見交換していただきたい。

対談者:佐藤 浩章氏(同上)

青木 聖久(日本福祉大学 会員校・日本ソーシャルワーク教育学校連盟理事)

司 会:調整中

(分科会) 13:00~16:00

分科会1

「多様な学生への教育支援」

〔概要と狙い〕

心身の障害や難病などの疾患を抱える学生をはじめ、セクシャル・マイノリティ、海外からの留学生その他の多様な配慮と支援を要する学生が増加している。こうした学生がソーシャルワーカーを志向する際、座学の授業のみならず演習・実習指導や、現場実習においても学生が享受すべき機会を平等に提供すべきであることはいうまでもない。

障害者差別解消法の施行に伴い、私学においては努力義務とされている障害のある学生への配慮について、支援のための部署の設置やキャンパスソーシャルワーカーの導入などが行われている。しかし多様化する学生の個別の特性に合わせた支援の実現には、学内外のコンセンサスや支援体制及び協働する仕組みの構築とともに、学生本人の主体的参画はもちろん保護者の理解も欠かせない。

本分科会では、こうした取り組みについて実践報告を交えて情報交換や討議を行い、人の多様性を受けとめながら共生できるソーシャルワーク人材の育成について考える。

〔到達目標〕

多様な学生への支援の意義を理解するとともに実践例を知り、各校で導入するための工夫・ノウハウや普段の教育実践に活用できる方法等を修得する。

〔事前課題と参考文献〕

第二報(開催要項・申込案内)時に提示する。

講 師:調整中

コーディネーター:田村 綾子(聖学院大学 会員校)

分科会2

「『生活支援記録法』を活用した『書く力(現象を再構成する力)』を養うソーシャルワーク教育」

〔概要と狙い〕

実習や見学において学生が体験する事象を、ソーシャルワークの文脈から再構成する力をいかに養うか、実践の“見える化”が可能となる教育方法を学び、普段の教育実践に活用できる方法等を学ぶ。“見える化”の方法として、相談援助実習において利用者との関わりを再構成するための「生活場面面接ワークシート」とともに、ソーシャルワーク及び多職種連携の実践現場で有効性が確認されている生活支援記録法を紹介する。

本分科会では、「生活場面面接」と実践の“見える化”のための「生活支援記録法」の概要と意義を理解し、社会福祉士・精神保健福祉士の養成教育、現任者研修に応用することを狙いとする。

〔到達目標〕

「実践の可視化」のための「生活支援記録法」を活用した教育実践の方法を学ぶ。

〔事前課題と参考文献〕

〔事前課題〕

- ・「生活場面面接ワークシート」を記入し持参する。
- ・詳細は、第二報(開催要項・申込案内)時に提示する。

〔参考文献〕

- ・小嶋章吾・鳶末憲子『M-GTA による生活場面面接研究の応用～実践・研究・教育をつなぐ理論』ハーベスト社、2015年。
- ・小嶋章吾「記録とIT活用」、『社会福祉援助技術論II』、全国社会福祉協議会、2017年。
- ・鳶末憲子・小嶋章吾編著『ケアマネジャーの実践力を高める支援経過記録～地域包括ケア・多職種連携時代の生活支援記録法(仮題)』日総研出版、近刊予定。

講 師:小嶋 章吾(国際医療福祉大学医療福祉学部/大学院 会員校)

鳶末 憲子(埼玉県立大学保健医療福祉学部 会員校)

実践報告:木村 秀氏(共立女子大学家政学部児童学科)

小島 好子氏(自治医科大学付属病院域医療連携部総合相談室)

(その他1名調整・依頼中)

コーディネーター:坂本 智代枝(大正大学 会員校)

### 分科会3

#### 「小論文やレポートの添削方法と評価」

〔概要と狙い〕

私たち教員は小論文やレポートの添削をしているが、多くの教員は自身の経験をもとにした自己流で指導をしているだろう。表記方法などは出版社からの校正原稿を参考にしているが、学生にわかりやすい添削の方法について学ぶ機会はこれまでなかったと思われる。

本分科会では、大学受験や大学の初年時教育における小論文・レポート添削指導で実績のある教育関連会社の講師から、例題文をもとに添削のポイントと評価例について講義を受け、小論文等でどのように学生の表現意欲を育てるかについて考えたい。

〔到達目標〕

レポート添削をする際の視点や学生の修学意欲を高める工夫などを学び、普段の教育実践に活用できる方法等を修得する。

〔事前課題と参考文献〕

事前に「例題」を提示するので、いつも通りの添削方法で記載して当日持参すること。次回、第二報(開催要項・申込案内)時に詳細を公開する。

講 師:教育関連会社より調整中

コーディネーター:山下 浩紀(学校法人日本医療大学生涯学習センター 会員校)

### 分科会4

#### 「ソーシャルワーカーのための多職種連携教育におけるアクティブ・ラーニングの実際」

〔概要と狙い〕

生活支援のためには、困りごとを抱える人を支えるために多様な専門職が連携し、包括的な支援を提供することの重要性が従来にも増していわれている。そこでは、サービス利用者中心を共通目的として、支援する多職種がフラットな関係で連携することが求められる。そして、これを実現するためには、養成教育の段階から多職種連携を視野に入れ、共に学ぶことが重要である。共に学ぶ際には学生が主体的に授業に参加することが求められるが、これを実現するために、アクティブ・ラーニングを活用することが求められている。

本分科会では、川崎医療福祉大学で行なっている「インタープロフェッション演習」について、その概要、内容、手順等を紹介する。また、グループワークを通して、各養成校の取り組みや、課題について情報共有を行う。

〔到達目標〕

アクティブ・ラーニングの実践例を、IPE(Interprofessional Education)など専門職連携教育の手法やその課題を検討・共有して、普段の教育実践に活用できる方法等を修得する。

〔事前課題と参考文献〕

既に IPE に取り組んでいる場合は、その内容を持参すること。次回、第二報(開催要項・申込案内)時に詳細を公開し、持参する枚数等は参加表送付の際に伝達する予定とする。

講 師:長崎 和則(川崎医療福祉大学 会員校)

コーディネーター:調整中

## <研修会費（予定）>

- ①会員 1名につき 13,000 円……………日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校  
社会福祉士養成課程・精神保健福祉士養成課程所属教員
- ②非会員 1名につき 18,000 円……………日本ソーシャルワーク教育学校連盟非会員校
- ③会員校事務職員 1名につき 3,000 円(プレ企画のみ参加の場合:無料)  
……………日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校
- ④実習指導者・大学院生・学生 1名につき 3,000 円

## <情報交換会費（予定）>

8,000 円 会場:ホテルサンルート有明 花明 (東京都江東区有明3丁目6-6)

## <お申込方法>

5月上旬に全国研修大会第二報(申込要項)を公開予定です。

## <会場アクセス>

武蔵野大学 有明キャンパス住所:東京都江東区有明 3-3-3



路線	最寄駅	最寄駅からのアクセス
りんかい線	国際展示場駅から	徒歩7分
ゆりかもめ	国際展示場正門駅	徒歩6分
JR 各線(新幹線・在来線) 東京メトロ(丸ノ内線)	東京駅(丸の内南口)	5番乗場より都営バス(都 05 系統「東京ビッグサイト」行き) 約 30 分「武蔵野大学前」下車すぐ
	東京駅(八重洲南口)	10 番乗場より都営バス(東 16 系統「東京ビッグサイト」行き) 約 30 分「武蔵野大学前」下車すぐ

## 【連絡事項】

- \* 各ワークショップ及び分科会・タイムスケジュール・講師及びコーディネーター等は現時点のものです。一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。
- \* 大会期間中のご宿泊につきまして、主催者は紹介・斡旋いたしません。各自でご手配ください。お早目のご予約をお勧めいたします。
- \* 正式な研修会費・参加申込方法などは、5 月上旬発送予定の第二報でご案内いたします。
- \* 研修会 2 日目は、昼食(弁当)の発注を受付します。必要な方は申込時に併せてご注文ください。

**一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟**  
 東京都港区港南 4-7-8 都漁連水産会館 6 階  
 電話 : 03-5495-7242 FAX : 03-5495-7219  
 E-mail : office@jascsw.jp  
 URL : www.jascsw.jp